

令和2年度 実績報告

浜松聖星高等学校

1 全般状況

新型コロナウイルス感染症によって大きな影響を受けた1年であった。行事の縮小・中止などが相次いただが、一方でICTの面では大きく進歩した1年であった。

2 事業概要

(1) 定員、生徒数、教職員数等

ア 入学定員等

普通課程 修業年限 3年

入学定員 175名(2, 3年) 200名(1年)

イ 生徒数(令和3年3月31日現在)

学年	募集人数	在籍生徒数	備 考
1年	200	175	令和2年度入学生(共学化4年目)
2年	175	206	平成31年度入学生(共学化3年目)
3年	175	185	平成30年度入学生(共学化2年目)
合計	550	566	

ウ 教職員数(令和3年3月31日現在)

校長1 教頭1 教諭25 養護教諭1 常勤講師6 事務職員5 (計39名)

非常勤講師16 非常勤カウンセラー1 非常勤職員3 司書1 (計21名)

総計 60名

(2) 募集活動

《令和3年度入試結果》

・受験者内訳 男子 143名 女子 502名

・入学者内訳 男子 52名 女子 189名 国際教養コース 168名 国際特進コース 73名

・夏のオープンスクールは対面での実施を避け、Webでの開催となった。(視聴者数698名)

秋のオープンスクール2回(参加者数548人)・オンライン視聴(83名)

入試説明会(参加者数445人)・オンライン視聴(39名)

・中学校へ出向いての出張授業を行った。

(3) 学校評価

関係者の協力を得て、様々な貴重な意見を頂いた。

学校関係者評価は、保護者アンケートと共にホームページ上に公開する。

(4) 学習指導 進路指導

ア 新型コロナウイルスの感染予防のため、4月13日(月)～5月22日(金)の期間を休校とした。

イ 休校期間中もGoogleのMeet機能を用いて朝の点呼を行い、5月11日(月)～22日(月)の期間には、全教科にわたってオンライン授業をおこなった。

ウ 学校再開後も2週間は短縮授業とし、分散下校をおこなった。

エ 休校の影響で、中間試験、期末試験は2週間延期、また授業時間確保のため、1学期終業式を2週間延期し、8月5日に行った。また、2学期始業式も2日前倒しとなった。

オ 夏休みの短縮のため、夏期補講は8月17日～21日の期間に行われた。2・3年対象に、23講座のべ355人が参加した。(2年6講座150人 3年17講座205人)

カ PGは通常の形で行うことはできなかった。その中でも1年生はchromebookの研修を半日かけて行い、新学期早々に休校となったときも学校と生徒をつなぐ一助となった。

キ 検定の実施にも新型コロナウイルス感染症の影響は大きく、休校で校内での実施ができないことを避けるため、1学期は生徒各自での個別申し込み本会場での受験という形を取った。

ク 進学については、大学進学希望者が増加する傾向にある。大学入試共通テストの導入など、新しい入試形態がはじまり、従来の推薦入試、AO入試の受験者数が増加し、厳しい入試となった。

ケ 就職については厳しい1年となった。新型コロナウイルス感染症の影響で観光、飲食業・観光業などの分野の求人がほぼなかった。年度当初は20名ほどの就職希望者があったが、最終的に就職をしたのは5名であった。

(5) 教育課程

2022年からの新学習指導要領に則った新カリキュラムの編成を検討した。

(6) 奉仕活動

ア 新型コロナウイルス感染症の影響で、末広会の施設訪問の再開の目処が立たず、4月の新会員募集を見送った。

イ あしながら学生募金も実施が見送られ、1年生全員が募金活動に参加という長年掲げてきた目標が達成できなかった。

(7) 国際交流

ア 令和2年度はカナダ4名、イギリス2名、オーストラリア6名の留学が予定されていたが、新型コロナウイルス感染症の影響ですべて中止となった。

イ アメリカ研修は中止。

ウ オーストラリアとスペインから留学生がくる予定であったが、キャンセルとなった。
エ 1年特進コース対象のエンパワーメントプログラムは、外国からの大学生を招くことはできなかつたが、国内に留学中の学生を招いて予定通り行われた。

(8) 部活動

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で多くの大会が中止となった。
- ・情報処理部の2年生久後清斗、田部慈人が「Pepper社会貢献プログラムSREAMチャレンジ全国大会2021」に参加、特別賞を受賞。
- ・吹奏楽部は静岡県高等学校総合文化祭吹奏楽部門コンテストの部でグランプリを受賞し、令和3年度和歌山総文全国大会出場予定。金管八重奏が第44回全日本アンサンブルコンテストに出場、金賞を受賞した。また、第33回全日本高校選抜吹奏楽大会において、静岡県勢ではじめてグランプリを獲得した。
- ・放送部の2年生竹内菜摘が令和2年度静岡県高等学校総合文化祭放送部門 兼 第41回静岡県高等学校放送新人コンクール朗読部門で準優勝し、令和3年度和歌山総文全国大会出場予定
- ・第53回静岡県高等学校新人陸上競技対校選手権大会
　津村杏奈(女子走幅跳総合3位・東海新人大会出場権獲得)
　濱口時瑛(男子走高跳総合4位・東海新人大会出場権獲得)
　野中咲良(女子走高跳総合2位・東海新人大会出場権獲得)
　* 東海大会はコロナのため中止

(9) 生徒指導

落とし物が多く、そのほとんどが無記名で持ち主が現れない状態だった。また、ジャージや制服・セーターなどの取り違えなども起こり、無記名が原因での混乱が目立った。

(10) 学校行事

ア 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、様々な行事が縮小、延期、中止となった。
イ 入学式は来賓を招かず、呼名も省略、式歌も録音によるものなど簡略化しておこなった。
ウ 通常1学期に行う健康診断、内科検診、歯科検診などを延期。9月に行った。
エ ベリタスプラザは9月に延期し、体育祭と同時期に行った。
オ 遠足、アメリカ研修、看護医療系プログラム講演会、授業参観、マリア祭りなどは中止
カ 修学旅行は期間を一日短縮し、広島・四国に研修先を変更して実施した。
キ 体育大会は、生徒職員のみの参加でおこなった。競技の様子は撮影し、後日You Tubeで配信した。
ク スポーツデイは、教室でリモート観戦ができるよう工夫をして行った。
ケ 「クリスマスツリーの下で」はポスターなどの宣伝はおこなわなかつたが、近隣の方々にもおいで頂いて行った。
コ ステラサンクタクリスマスは一般公開をせず、生徒のみ半数ずつ二回に分けて鑑賞した。
サ マラソン大会は、エコペでの実施を見送り、校内で授業時間内に実施した。

(11)その他

昨年度末から開始した連絡アプリによる保護者への連絡システム、生徒全員がGoogleアカウントを持っていることなどが、コロナ禍において大きな威力を発揮した。いち早くオンライン授業に切り替えられたこと、Googleフォームによる毎日の検温報告が実施されたことなど、コロナ対策の一助となつた。